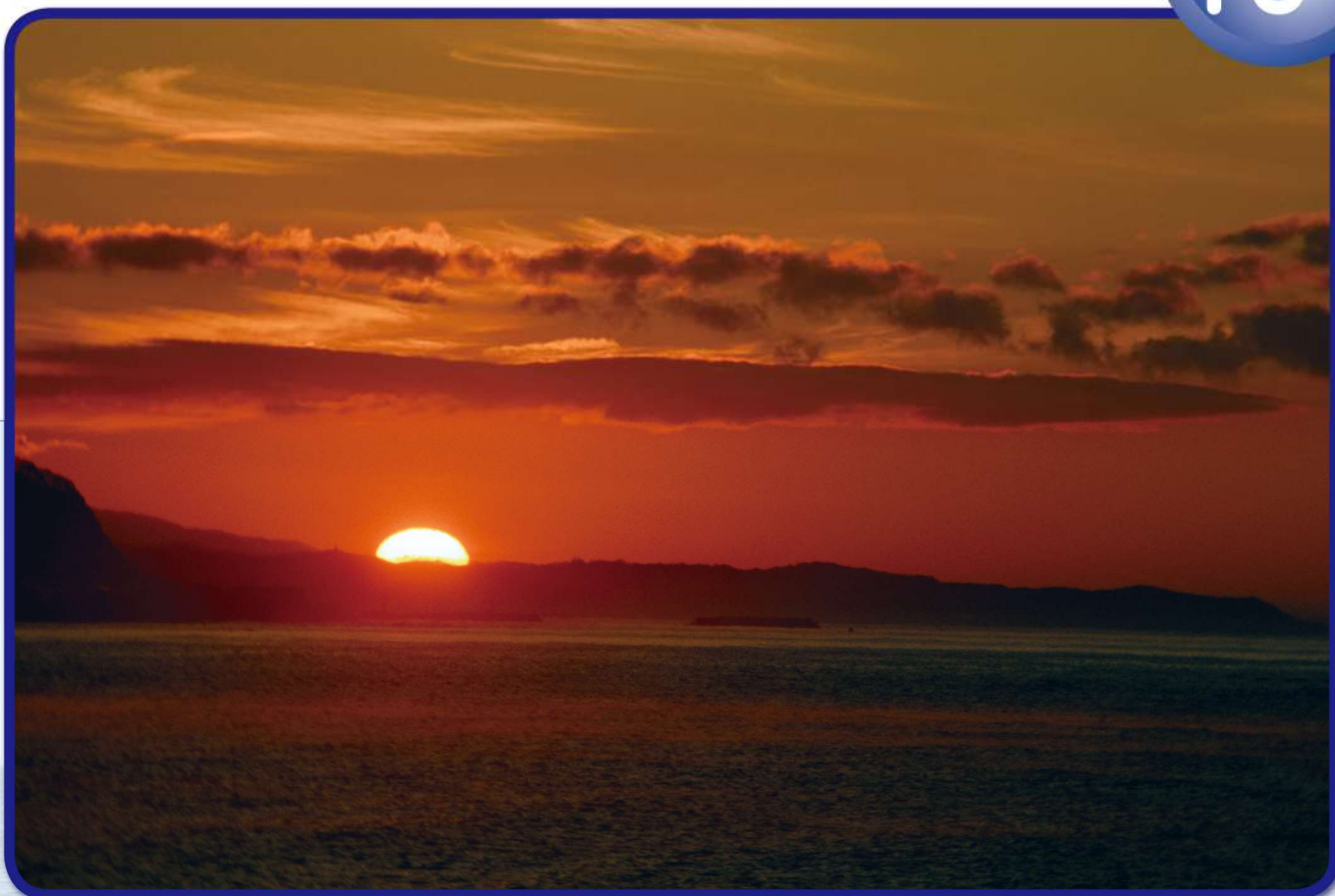


あおもり漁連

故 植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
164



CONTENTS

県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ	1
全国系統団体 年頭ごあいさつ	7
ホタテガイ生産額200億円達成報告	10
植村正治会長之像「建立除幕式」・「建立祝賀会」	11
平成28年度補正予算に係る事業説明会開催	13
平成28年度共販販売担当者会議開催	14
第31回漁協運動功労者表彰、大農林水産祭	15
水産に関する主な動き（8月～12月）	16
第44回「青森の海と川をきれいにする運動」入賞作品紹介	17
平成28年度密漁防止絵画コンクール	21

2017. 1

資源・金融・共済の三本柱推進

平成二十九年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 赤石 憲二

平成二十九年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員はじめ関係の皆様には、日頃より当連合会の業務運営に対し、格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成二十八年の本県の漁業につきましては、ホタテの生育が順調に推移したこと、品薄感による原価価格の高騰により、過去最高であった二十七年の取扱を更に上回り、史上初となる二〇〇億円を突破することが出来ました。これも偏に漁業者並びに関係漁協の努力の賜物と敬意を表するところであります。

一方で、鮮魚類につきましては、ヤリイカやブリは好漁であったものの、本県主要魚種であるスルメイカが全国的な不漁であったことや、太平洋クロマグロの資源管理の影響もあり、総じて水揚げが低迷し、漁船漁業を中心とした漁家経営は厳しい状況にあります。

また、漁協経営においても、漁業者の高齢化や販売取扱高の減少等、年々厳しさを増している中、当連合会と致しましても漁協合併を視野

に入れた組織再編の必要性を再認識してもらうため、(公社)青森県漁協経営安定対策協会と連携を図り、二十八年六月から九月にかけて各漁協を巡回し、役職員を対象とした勉強会を開催しました。今後は浜の声を集約し、新たな合併の枠組み構築と組織再編の完遂に向け、積極的に取り組んで参る所存であります。

さらに、二十七年の度補正予算により創設されたTPP関連対策である「水産業競争力強化緊急事業(漁船リース緊急事業、機器等導入緊急対策事業等)」の活用に向けた取り組みを展開して参りました。しかし、需要に対応するだけの予算措置がなされておらず、平成二十八年六月二十日開催の当連合会組合長会議において「わが国水産業の構造改革推進にかかる政策の大幅

拡充を求める特別決議」を採択し、予算の拡充等を全国レベルで要請し、二十八年度補正において、増額が図られたところであります。

当連合会と致しましては、引き続き、漁協並びに漁業者への情報提供と事業活用を積極的に推進し、浜の活性化に向けて取り組んで参る所存であります。

青森県の水産業は地域の産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業であります。このことを認識し、水産物を安全・安心な食料として将来にわたり安定的に供給することが、私達の使命であります。

本年も、「一人一人の力はあまりに小さいが和して団結するとき偉大である」との協同組合運動精神のもと、本県漁業・水産業の安定と発展に寄与すべく業務に邁進して参りますので、関係各位におかれましては、特段のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますのご健勝とご多幸、並びに豊漁と海上安全をご祈念申し上げます、併せて救命胴衣常時着用をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



青森県農林水産部

水産局長

吉田 由孝

明けましておめでとうございます。

本県水産業の振興と発展に御尽力いただいている皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

昨年の本県水産業は、ホタテガイ養殖業が特に好調で、生産量では十二万トン、生産額は二五〇億円を超え、県が統計を開始した昭和三十六年以降、最高を記録しました。平成二十二年の陸奥湾の高水温による大量へい死を乗り越え、このような記録を達成できたことは漁業者をはじめとする関係者の努力の賜物であると大変うれしく思います。県としては、今後も品質の良いホタテガイを安定して供給できるように取り組むほか、そのおいしさを国内外に広くPRしていきたいと考えています。

一方、本県的主要魚種であるスルメイカは記録的な不漁となっており、自然環境に大きく左右される魚種の安定生産の難しさを改めて痛感

しています。今後は、限られた資源の動向をより正確に把握し、その適正利用を図っていくこととなりますが、漁業者の皆様には、漁業共済制度等の活用による経営安定に引き続き努めていただきたいと思います。また、少なからず人為的取組が可能な魚種については、海の畑づくりと種づくりによる「つくり育てる漁業」に、今後とも関係の皆様と力を合わせてしっかりと取り組んでいかなければとの思いを強くしています。

昨年の明るい話題としては、風間浦村の「ゆかい村風間浦鮫鱈ブランド戦略会議」が、第五十五回農林水産祭むらづくり部門で「日本農林漁業振興会会長賞」を受賞したことがあげられます。これは、漁業者自らが率先してキアンコウ資源の把握に努め、資源管理を実践し、持続的な漁業を展開するとともに、漁法や食文化等の伝統を生かし、後継者の育成や雇用の拡大

につなげていることや、漁業と観光を結び、地域ぐるみでキアンコウのブランド化を図り、漁村の活性化に繋がっていることが評価されたものです。

県の重要施策である「攻めの農林水産業」において、このような各地域の特色を生かした取組や良質で豊富な水産物の情報発信、それを担う人材の育成などを積極的に推進している中で、地域活性化のモデル事例として全国的な評価を受けたことは大変誇らしく、関係者の方々の御尽力に深く敬意を表するとともに、今後の更なる発展と県内全域への波及を期待しています。

県といたしましては、本県の水産業が地域の産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業であるとの認識のもと、今後も水産業に携わる皆様と一丸となって、本県水産業が発展するよう、組織や漁港などの基盤強化をはじめ各種施策に取り組んでいきますので、関係者の皆様におかれましては、より一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びにあたり、皆様のますますの御健勝と御繁栄、そして操業の安全を心からお祈りしまして、新年の御挨拶といたします。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 西崎 義三

新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、県下漁協組合員の皆様並びに漁協系統関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の我が国の経済情勢でございですが、新安倍政権が発足してから四年が経過し、「三本の矢」、追加政策の「新三本の矢」の一体的推進により、長引くデフレからの脱却を目指し、緩やかに景気が回復してきているように感じられます。しかしながら、個人消費と設備投資の内需の二本柱は相変わらず横ばいにとどまっている状況にあります。このような状況下、日銀は市場に資金が回るようにと、昨年二月十六日に大胆な金融緩和政策「マイナス金利」を実施いたしました。結果的には円高となり、景気の足踏み状態が続いております。また、当初四月予定であった消費税増税を二年半先送りしたことにより、改めて実態としては景気が低迷していると感じられた年でありました。

一方、世界情勢に目を向けますと、昨年十一月に行われた米大統領選で大方の予想と反し、トランプ氏が圧勝したことにより世界の経済にも影響があると考えられます。トランプ次期米大統領の掲げるインフラ投資・大規模減税政策等により景気の拡大も期待されており、現に、世界的にインフレ期待が強まっており、米国を

中心に長期金利が上昇しているのを反映し、昨年十二月に国内では、長期金利が約十ヶ月ぶりに高水準に上昇しました。

もう一方で、TPP離脱を明言するなど、悪影響を及ぼすリスクもあり、また、春にはフランスで大統領選、秋にはドイツで大統領選と政治の大移行期を迎えることから、今後も世界の経済については目が離せない状況となっております。

次に、漁業情勢につきましては、漁獲量の減少、燃油の高止まりといった状況が長年続いており、漁業経営は大変厳しい環境に晒されております。JFグループとしても喫緊の課題と受け止め、「水産日本の復活」に向けた取組を行うべく基本方針を策定し、浜の活力の再生、漁業・漁村の健全な発展・成長のための積極的な運動を展開しております。

また、本県漁業においては、主要魚種であるホタテ漁業は、昨年に引き続き好漁で、水揚げ状況につきましては、平成二十八年十一月末でホタテの水揚げ金額（県漁連取扱分）二〇七億四七〇〇万円と前年比、一五六パーセントとなりました。しかしながら、鮮魚類は、上期では総じて数量・金額ともほぼ前年並みでありましたが、後半に落ち込み、十一月末時点では、特に主力魚種であるスルメイカの水揚げ

額（県漁連取扱分）一九億四三〇〇万円、前年比六八パーセントと、また、マグロにおいても、未成魚の漁獲規制等により、水揚げ金額（県漁連取扱分）一二億四五〇〇万円、前年比八五パーセントと、大変厳しい状況となっております。この窮状を受け当連合会ではイカ釣漁業を主体とした漁業者の皆様に融資等の対応を積極的に行っているところです。

現在、当連合会では、経営基盤の拡充を通じ、漁業金融を中心とした金融機能の強化を図り、浜の活力向上に貢献することを目的に、JFマリンバンク広域化研究会（広域合併構想）に参画しております。また、内部管理体制の確保を目的に店舗の直営化及び再配置を目指しております。今後も、会員漁協の役員及び系統団体等と協議を重ねながら、慎重に進めて参ります。なお、広域合併につきましては浜との接点を最重要課題として、今以上のサービスを提供できるよう、努力して参る所存でございますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当連合会は平成十四年に農林水産省官房検査により行政処分勧告を受け、多額の償却・引当金の計上が不可欠となり、会員・関係団体・行政のご支援・ご協力のもと、経営改善計画に沿って業務を遂行してまいりました。皆様のお力添えのもと、今年の三月をもちまして十五年間の改善計画が無事完了する事が出来ま

す。ここまで、絶大なるご協力、ご支援を賜りました会員の皆様、関係団体の皆様に改めて衷心より厚くお礼申しあげます。

現在の当連合会の経営状況ですが、平成二十八年十一月末で貯金残高七一〇億一〇〇万円、貸出金残高八三億五三〇〇万円となりま

した。昨年と比較して貯金残高は大幅に増加し、信漁連創立以来初の七〇〇億円超えの実績となっており、貸出金残高については厳しい伸び率ではありますが、計画比では概ね順調に推移いたしております。これも一重に皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。

貯金業務につきましては、青森県漁協系統貯金平成二十八年度末残高五七五億円達成を目標として、JFマリンバンク懸賞付定期貯金を、JFマリンバンク全国統一キャンペーンのタイアップ商品とした貯蓄推進を行うと共に、年金受取口座獲得・公共料金等の口座振替獲得件数拡充推進に努めて参ります。



青森県漁業信用基金協会

理事長 奈良岡 修 一

新年おめでとうございます。

平成二十九年の輝かしい新年を皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく存じます。

日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、最近の漁業を取り巻く情勢は、漁場・資源環境の劣化、漁撈コストの高騰、そして、漁船の高船齢・老朽化、更には、漁業者の高齢化や就業者の減少等により本県中小漁業者の経

貸出業務につきましては制度資金をはじめ各種ローンの推進をしているところでありますが、今年度においても昨年度よりスタートした漁業経営アシスト資金（保証人原則不要）を活用した設備資金の促進と住宅ローン（協会保証付）をメインに生活資金の融資の拡充を図って参ります。また、T P P 関連対策事業として、漁船リース事業や機器導入事業などによる「水産業競争力強化緊急事業」が平成二十八年度補正予算で二五五億円措置されました。これにつきましては、当連合会といたしましても漁業者の皆様のお力になれるよう、今後も行政、関係機関と連携の上、対応していく所存でございます。

営は、依然として厳しい状況が続いております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様そして私ども「系統団体」が一丸となり、その役割を発揮することが必要と考え、当協会としまして関係機関と連携し、厳しい環境下にある漁業者の経営並びに生活の維持・安定を持続的に図るため、本県独自に創設した「沿岸漁業推進関連資金」や「極度貸付根保証資金」等に加え、後継者対策に資するための漁家環境の向上を目的とした「事業関連住宅資金」や、国の

す。

今後も、漁業者の皆様には貯金・貸出等につきまして、当連合会の各店舗を通じてお気軽にご相談・ご利用くださいますようお願いいたします。

結びといたしまして、新たな年が青森県漁業にとりまして豊かな年となりますことと、皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、JFマリンバンクへの変わらぬご支援・ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

事業である、積極的な設備投資並びにT P P 関連対策に係る水産業の競争力強化を促進する、協会保証を前提とした新たな「無保証人型資金」や「競争力強化型無保証人資金」、そして、漁船の適切な更新を促進する「浜の担い手漁船リース緊急事業」に係る金融支援事業に対して、積極かつ的確に推進して参る所存であります。

また、漁業金融への浜のニーズに的確かつ持続的に応えるとともに、融資を受けた後の安定した漁業経営を確保するため、『水産資源の確立』、『漁業金融の円滑化』、『漁業共済加入推進』の三本柱を効率よく循環させるための『循環型漁業』の構築に引き続き努めて参りますので、皆様の更なる御理解、御支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、皆様のますますの御繁栄と御健勝並びに海上安全をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。



青森県漁船保険組合

組合長理事

福島 哲男

新年明けましておめでとうございます。
平成二十九年の新春を迎え、組合員、漁業協同組合、水産関係団体の役職員の皆様に心から新春のお慶びを申し上げます。

平成二十八年の本県の漁業・水産業界を取り巻く環境をみますと、陸奥湾ホタテ養殖業は過去最高の水揚げとなったものの、主力魚種であるスルメイカの不漁を始めた水揚げの減少、魚価の低迷、後継者不足に加え、マグロ資源管理による数量規制等厳しい一年でありました。

当組合は、昭和十三年の創立以来、およそ八十年に渡り組合員の負託に応えるべく努力し

てまいりましたが、漁船保険業界を取り巻く環境は、漁船の減少、漁業者の高齢化など非常に厳しい状況であり、漁船保険組合の経営基盤である加入隻数、保険金額の漸減を余儀なくされております。また、東日本大震災や今後予想される東南海地震に備え、漁船保険制度が今後も引き続き漁業者のための保険として有効に機能するために、漁船保険組織の財政基盤を強化し、より合理化・効率化された組織体制が必要となり、全国の漁船保険組織と漁船保険中央会を一元化し、統合された漁船保険組織として再編することに對する決議を平成二十六年三月十日開催した臨時総代会にお諮りし決議頂きまし

た。
昨年五月の法律改正の成立を受け十一月二十九日の臨時総代会において、平成二十九年四月の組織統合に向けた、新組合の設立及び新組合設立発起人に対する全ての権利義務を新組合に承継するご承認等を賜りました。当組合は平成二十九年四月より日本漁船保険組合青森県支所として、また、八戸支所は青森県支所の出張所として存続する予定となっております。

漁船保険は、継続加入船の高船齢・高機齢化が進み、今後も経年損耗に起因する事故の発生により保険金の支払も増加するものと思われませんが、新組織においても漁船保険の使命である「漁家経営の安定に資する」の目的を達成するため、保険金の早期支払、未加入漁船の加入促進、事故防止事業の充実等事業の推進を図り努力する所存でありますので、関係各位のなおい層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終りに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷 廣明

「きよきつ」と「積立ぶらす」を全ての漁業者へ

青森県の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。
新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心より祈念申し上げます。

昨年を振り返りますと、四月に九州地方で最大震度七を観測した熊本地震をはじめ日本各地で大きな地震が頻発し、北海道・東北地方に直接上陸した台風は、東日本大震災から復興いだ道半ばの被災地をも直撃しました。また、するめいか、さけが記録的な大不漁に見舞われるなど、改めて自然の恐ろしさを感じ知らされる

た。

とともに、漁業者にとって非常に苦しい一年となりました。

「ぎよさい」と「漁業収入安定対策事業（積立ぶらす）」は漁業経営の安定を図るための国の水産施策の重要な柱として位置付けられており、漁業共済団体は、「ぎよさい」と「積立ぶらす」の普遍的な加入と定着を目指して、平成二十六年より普及推進全国運動「しっかりと入で安心経営」を展開しているところです。

運動二年目となる昨年度（平成二十七年）は本組合設立以来最高となる共済金額一八七億二千万円、「積立ぶらす」の漁業者申

込積立額七億一千万円という実績を確保できました。このような成果を上げることができましたのも、本県漁業に携わる皆様のご理解と関係各位のご支援ご協力の賜物であり、心から御礼申し上げます。

そして、三年間にわたり展開してきた普及推進全国運動「しっかりと入で安心経営」の締めくくりとして、今年度（平成二十八年度）の目標である共済金額一八七億三千万円、漁業者申込積立額七億三千万円の計画達成に向け、残り三ヶ月間役職員一丸となって普及推進活動に取り組んで参ります。

また、本年四月より、より多くの漁業者にご利用いただけるよう制度改正が行われます。今回の新しい制度を活用しての加入推進を図るため、新しい普及推進全国運動の実施を予定しております。本組合としましては、「ぎよさい」と「積立ぶらす」が災害対策・経営安定対策の役割を十分に発揮し、漁業経営の大きな支えとして県内全ての漁業者に活用していただけるよう心を新たにしてい取り組んで参りますので、本年も皆様の変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



農林中央金庫青森支店

支店長 及川 勝治

県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役職員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁協系統事業全般にわたる皆様の日々のご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、私も農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、昨今の漁業情勢につきましては、ご高承のとおり、本県主要魚種であるスルメイカやサバについては、深刻な不漁が長期化しております。これを受け、スルメイカ等、魚価が高騰

している魚種もあり、特に八戸地区においては、水産加工業にとって非常に厳しい状況と認識しております。一方、当県の主力魚種であるホタテガイについては、漁獲金額二五〇億円を超え、過去最高の好漁となっていることや、また、原油価格については、OPECでの減産合意等があったものの、比較的低水準で推移していることから、厳しい状況の中にも、明るい兆しも見えております。

世界情勢に目を向けますと、米国大統領がトランプ氏に決定したことで、次期政権財政政策の影響等を考慮して、足元では米国を中心に

二〇一七年の成長率見通しを上方修正する動きが見受けられます。日本経済においても、株価・金利には上昇圧力がかなり、為替は急激な円安方向へ推移するなど、良かれ悪かれ多大な影響を受けており、中長期的には、今後の影響や見通しについて不透明感が大きくなっております。

このような情勢の中、協同組織の漁業専門金融機関であるJFマリンバンクといたしましては、浜の皆様がいかなる時も安心して生活いただけるよう、漁業金融機能を強化し、浜と地域社会の発展への貢献を通じて、浜の暮らしを守ることこそ、果たすべき使命だと捉えております。このため、定期貯金や給与振込・年金口座指定等を対象にした「全国統一キャンペーン」の継続展開や、女性部の魚食普及や貯蓄推進活動に対する助成等、また、今年度については、三親等以内の漁家子弟を含む漁業新規就業者研修受入先に対する一部費用助成の実現に向け、現在検討を進めているところであります。

また、昨年度からは、漁船リース事業や機器事業等により、資金需要が発生するものと認識しており、引き続き青森県信用漁業協同組合連合会はじめ関係団体と十分連携のうえ、取り組んでいく所存であります。

金融業界全体に目を移しますと、反社会的勢力等の排除に向けた取り組みや不祥事の発生未然防止等、コンプライアンスにかかる社会的要請の高度化や、FATCAに続きCRSという金融口座情報の自動交換基準が新たに設けられる等、信用事業窓口での負担も年々増えているこ

とからも、単に法令・制度の遵守に留まらず、社会からの期待や要請に適切に応えていくことが求められております。

また、マイナス金利等により、金融機関を取り巻く環境が厳しさを増している中、漁業系統組織においても経営基盤強化を目指し、本年四月に兵庫県と和歌山県の信用漁業協同組合連合会が合併し、「なぎさ信漁連」が誕生いたしました。「なぎさ信漁連」誕生により、全国的な広域化の機運も高まっていくことが推察されます。

私も農林中央金庫といたしましても、引き続き、JFマリンバンク利用者の負託に応え、「浜の暮らしを守る信頼の金融」の実現に加え、「浜の活性化」のために、微力ながらお手伝いさせていただく所存であります。皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体役職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十九年 全国系統団体 年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸

宏

新年あけましておめでとうございます。全国の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶申し上げます。

振り返りますれば、昨年も多くの自然災害が襲ってまいりました。その中でも四月に発生した熊本地震では、私自身複数回に亘り現地を訪問し、JFグループとしていち早く総額七、六〇〇万円にものぼる系統募金を贈呈すること

ができました。現地では既に海苔共販が行われるなど復興に向け前に足を進めております。ここに改めまして皆様のご協力に御礼申し上げます。

また、昨年は漁業者の悲願であった漁船建造に関するリース事業や機器導入事業などによる「水産業競争力強化緊急事業」が平成二十八年度補正予算で二五五億円措置され、「浜の活力

再生プラン」という海図とともに漁業者自らが浜の構造改革を実践できる段階に入りました。私は常々申し上げておりますが、知恵は現場にあり、漁業者が自らの浜に合う方法でJF、行政など関係要路の協力を得ながら、構造改革を確実に進めていきたいと思います。

一方で、浜の構造改革には、人材育成も重要です。これについては、近年、漁業に魅力を感じている若者たちの就業をはじめ、浜の起業家育成など、人材育成の仕組みを創ります。また、水産物の消費拡大、輸出振興については、平成二十六年より開始したプライドフィッシュプロジェクトやシンガポールのアンテナショップを活用した取り組みが消費者、流通に対して一



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

川 端

勲

新しい三か年計画がスタート

新年あけましておめでとうございます。平成二十九年の年頭にあたり、浜の皆様は謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、昨年は本会の事業活動につきまして、多大なるご支援を賜わり心からお礼申し上げます。

はじめに、昨年発生した一連の大規模地震や大型台風、豪雨等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者および地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、JF共済を取り巻く情勢は本格的な人口減少の到来、漁業従事者の減少や水産物国内消費の伸び悩み、地球温暖化などによる水産生物の生息環境の変化など、先行き不透明で相変わらず厳しい状況が続いているものの、漁業

定の浸透と効果を出しており、これらを押し進め更なる消費拡大を図って参ります。

このほか、漁業者が担っている漁業の多面的機能の一つである国境監視機能について、多くの国民の支持をいただくための取り組みを行う

とともに国に対して国防機能の中で漁業者、漁村の果たしている役割、重要性をしつかり位置づけていただくよう強く求めています。

会員をはじめ、関係者の皆様に於かれましては、これら諸課題を乗り越え、本会と共に「水

生産額の底打傾向や若手漁業者の参入増加等、明るい兆しも見え始めています。こうした中、JFグループでは新運動方針（平成二十七～三十一年度）を定め、「水産日本の復活」に向けて、浜の漁業の永続や漁業所得向上に向けた漁業構造改革が進められています。

JF共済においては「三か年計画」も残すところあと僅かとなりましたが、これまで保有契約量の減少傾向に歯止めをかけるための共済事業量の確保に向け、組合員等利用者への全戸訪問活動・保障点検活動を展開することにより、組合員等利用者に対し万全な保障を提供することに努めてまいりました。その結果、二十七年末でJF共済の契約件数は六十二万件、長期共済保有実績（保障金額）は

産日本の復活」に向けた歩みを進めていただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、全国各地でご活躍の漁業者の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

二兆四、六二九億円、短期共済加入実績（保障金額）は二兆四、九九三億円に達し、暮らしの一助としての事故・満期共済金も一年間（二十七年）で四九〇億円をお支払いしています。

また、継続的・安定的な事業基盤を確立するためJF共済事業の健全性強化にも取り組んだ結果、支払余力（いわゆる「ソルベンシー・マージン」）比率は一、一二・八、二％（二十七年末）を確保することができました。今後も、引き続き共済事業経営の一層の健全性強化に取り組むとともに、組合員・地域住民の皆様の負託に応え、ご利用者ニーズにあった保障制度の提供につとめてまいります。

いっぽう、JF系統の方針として平成二十六年七月一日から平成二十八年六月三〇日までの二年間限定で行った漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、JFにおいてきめ細かな個別ご案内を行い対象者の約六六・九％の方が選択されました。これもひとえに皆様方のご理解とご尽力の賜物と厚くお礼を申し上げます。

今年は、新しい三か年計画がスタートする節目の年となります。様々な取り組みを力強く実施してまいりますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

赤石憲二

副会長理事

三津谷廣明

専務理事

小出政明

理事

木浪昭

〃

川村敏博

〃

二木春美

〃

山本幸宏

〃

田高利美

代表監事

工藤伍郎

監事

山口隆治

〃

岡沼明見

ほか職員一同

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

西崎義三

ほか役職員一同

青森県漁業信用基金協会

理事長

奈良岡修一

ほか役職員一同

青森県漁船保険組合

組合長理事

福島哲男

ほか役職員一同

青森県JF共済推進本部

本部長

三國優

ほか役職員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷廣明

ほか役職員一同

(一社)青森県漁港漁場協会

代表理事

越善靖夫

ほか役職員一同

ホタテガイ生産額200億円達成報告

平成28年8月25日をもってホタテガイ生産額が200億円を達成した事を、青森県漁連赤石会長及びむつ湾漁業振興会三津谷会長、立石副会長、木浪副会長、横内副会長が9月14日、青森県知事へ報告の為、青森県庁へ訪問した（三村知事が公務により不在だった為、青山副知事へ報告）。その中で、赤石県漁連会長からは平成22年に起きた大量へい死を、県や国の手厚い支援もあって乗り越えることができ、その甲斐あって今年は200億円を達成出来た事についての感謝の意を報告した。同様に、むつ湾漁業振興会三津谷会長からも「本県の主要産業であります『ホタテ漁業』は、昭和47年に養殖技術が確立され、昭和50年の大量へい死、貝毒問題などを乗り越え、昭和58年度には生産額を初の100億円の大台にのせる事が出来た。次の目標を外海も含む青森ホタテガイ生産額200億円とし、昭和62年には150億円を達成しましたが、以降、低水準で推移し、更に平成22年には長期間の高水温による大量へい死により、危機的状況まで陥った。しかし、国・青森県から親貝確保の為の、基金造成による支援を受け、平成27年度には過去最高の170億円を達成、更に今年は近年にない高成長、北海道の減産に伴う高価格により8月末時点で200億円を達成する事が出来た。」と述べた。

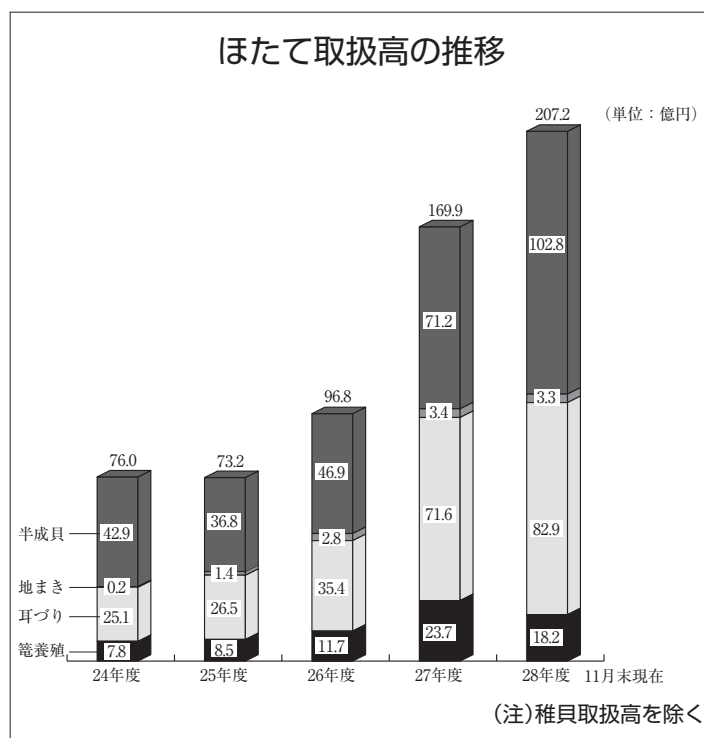
又、ホタテガイ200億円達成を記念し、日頃のご指導・ご協力に対する感謝の意を込めてホタテガイの研究・指導機関である青森県産業技術センター水産総合研究所へむつ湾漁業振興会より万能投影機を寄贈する事を併せて報告した。



赤石会長挨拶



青山副知事へ報告



植村正治会長之像 「建立除幕式」・「建立祝賀会」

去る、十一月九日、青森県水産ビル前において、植村正治会長之像「建立除幕式」が挙行された。当日は、雪が降る悪天候にもかかわらず、約八十名の参列者のもと、執り行われた。

開催にあたり、発起人代表である赤石会長が「早いもので、今年は植村氏が亡くなられてから三回忌という節目の年になります。そこで、過日、系統団体が発起人となり、植村氏の水産業界における多大な功績を称えるため、氏の胸像を建立することとなり、本日、除幕の運びとなった次第であります。胸像の制作に関しましては、全国の九割がここで制作されるという富山県高岡市において、彫塑家・熊谷友児氏の手により、約四ヶ月の期間を要し、完成となりました。

今後は、植村氏の功績を後世に伝えるとともに、氏の意思を引き継ぎ、系統一丸となって水産業発展のため、邁進して参りますので、皆様方にはご指導・ご協



除幕式出席者

力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶を述べた。

除幕式では、禮子夫人、ご子息の正美氏、岸全漁連会長、木村全漁連元副会長、三村青森県知事（吉田県水産局長代理）、発起人である系統団体長八名が代表して銅像を除幕した。

除幕式後、ホテル青森にて「建立祝賀会」が開催された。故人とゆかりのある県内外の漁業関係者など一七五名が出席し、故人の功績を称えた。

祝賀会では、赤石会長が「植村氏は昭和三十一年に平内東田沢漁協の理事に就任され、その後、平内町内にあった六つの漁協を合併させるべく奔走され、その結果、昭和四十六年に平内町漁協が誕生することとなりました。

昭和五十年からは十二期三十六年間に、県漁連の会長を務められ、原子力船「むつ」の問題では、放射能もれを起こしたあとの大湊入港阻止



除幕する代表者

運動から、昭和六十三年の関根浜移転まで、漁業者の先頭に立ち、国との交渉に当りました。又、二度にわたるホタテ貝の大量へい死への対応、東日本大震災からの復旧・復興対策等、多くの難問解決にあたられました。平成十二年から、亡くなられるまでの十四年間は、青森県漁業信用基金協会の理事長を務められ、漁家経営の維持安定、漁業金融の円滑化にご尽力されました。

更に、昭和五十二年からの全漁連理事三十年間においては、副会長を四期十二年、平成十年からは三期九年、代表理事会長を務められ、二〇〇海里体制の確立、新日韓・日中漁業協定の締結、水産基本法の成立など、全国水産業界のトップとして強力なリーダーシップを発揮されました。

漁業を取り巻く環境は、以前として厳しい状況が続いておりますが、植村氏が生前から推進して参りました「協同組合運動」の原点に立ち返り、氏の意思を引き継ぎ、系統一丸となつてこの課せられた使命を果たすべく邁進して参りますことを、本日の胸像建立を期に、改めてお願い申し上げます。ご出席の皆様には、今後とも特段のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶を述べた。



赤石会長挨拶



続いて、三村申吾青森県知事、岸宏全漁連会長が祝辞を述べた。三村知事は、国会議員時代に植村会長に大きく関わっていただき水産基本法のとりまとめを行なったことを紹介し、むつ湾のホタテを青森県の基幹産業になるまで大きくした功績を称えた。

岸会長は、漁協系統組織の礎を築き将来へ向けた展望を開いたこと、水産基本法に尽力し、日本の水産業の理念を確立してくれたこと、日韓・日中新漁業条約を締結し新たな二〇〇海里時代を作ったことの三つの特筆される功績を挙げ、故人を称えた。



三村青森県知事祝辞



植村正美氏謝辞



岸全漁連会長祝辞

続いて、ご子息の植村正美氏が謝辞を述べられたあと、三津谷平内町漁協組合長が乾杯の音頭をとり、祝宴が行なわれた。



祝賀会参加者

また、祝賀会では、植村会長の生前ご活躍された映像が放映され、出席者は故人を偲んだ。

※植村正治会長之像は、青森県水産ビル前に建立されており、水産ビルにお立ち寄りの際には、是非ご覧いただきますようお願いいたします。



三津谷組合長乾杯挨拶

平成二十八年年度

補正予算に係る事業説明会

開催

去る十一月八日、青森県水産ビルにおいて、青森県漁連・青森県漁業経営安定対策本部主催の「平成二十八年度補正予算に係る事業説明会」が開催され、漁協組合長及び筆頭職員、県及び市町村、水産関係団体担当者、約一一〇名が出席した。

冒頭、主催者を代表して熊本参事が「漁船リース事業、機器導入事業につきましては、浜の期待も大きく、漁業者の要望により、国が追加で手当てしてくれた予算でありますので、内容を良く理解し積極的な事業の有効活用をお願い致します。」と挨拶を述べた。

次に、全漁連 田中次長より、平成二十八年補正予算の概要について説明後、水漁機構 市村専任部長から、競争力強化型機器等導入緊急対策事業（機器導入事業）、又、水産業サポート機構 竹岡部長から、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）の事業内容及び申請に係る事務手続きについて説明があった。

先般手当てされた、平成二十七年補正予算において、

機器事業…全体予算額四十億円

（本県配分額 約一億九千四百万円）

リース事業…全体予算額七十億円

（本県配分額 約四億九千二百万円）

が採択され事業の活用がすすんでいる。

更に、この度の平成二十八年補正予算においては、

機器事業…全体予算額四十億円

（本県配分額 約一億七千万円）

リース事業…全体予算額百四十二億円

（本県配分額 約四億七千八百万円）

が、漁業者の要望により一時予算として手当てされたが、当該事業については、浜の期待も大きいことから、事業の適正かつ積極的な活用を推進した。



市村専任部長による説明



説明会参加者

平成二十八年度 共販販売担当者会議 開催

報告

九月三十日、青森県水産ビル七階「大会議室」において「平成二十八年度 共販販売担当者会議」が開催され、漁獲量の減少や鮮魚規格について、意見が交わされた。

冒頭、赤石会長が「スルメイカの漁獲不振やクロマグロの漁獲規制等で漁業環境が厳しさを増している現状を踏まえ、販売担当職員の方々と意見を出し合い、より良い方向性を見出した」と挨拶を述べた。

会議では、鮮魚の主力であるスルメイカが、海水温の影響等もあり、全国的に不漁な状況で、本県についても水揚げが低調に推移し、高単価ではあるが厳しい状態であることや、サケの近況について、主産地である北海道で漁期に入ったが、数量で昨年比六八%と低調な水揚げである事を報告した。

また、鮮魚規格については、「下北地区共販推進会議」で提案された、活タコの規格変更について、真、と、汐、の区別をせずに十三kg以上を、大、とする事などを説明し、各組合の同意を得て、変更時期については後日連絡する事とし、会議を終了した。

会議後に、北日本神経メ師会の塩谷会長及び桶田副会長を講師に迎え、講演会を開催した。講演では、魚種に合わせた様々な神経締め技法や、神経を締める事で付加価値が高まり、神経を締めない魚種との差別化を図るなど、「神経締めについて」の講演が行われた。

- 1) 平成二十八年度八月末取扱実績について
- 2) 平成二十八年度販売事業の状況について
- 3) 販売に係る協議(意見交換)

講演…演題「神経締めについて」

講師…北日本神経メ師会

塩谷会長 桶田副会長



挨拶する赤石会長



各組合職員と駐在職員



講演する塩谷会長(北日本神経メ師会)

第31回 漁協運動功労者表彰

去る11月17日、全漁連主催による2016年度(第31回)漁協運動功労者表彰式が東京・如水会館で開催され、受章者39人が表彰されました。青森県からは、後潟漁協の山口組合長が表彰されました。

受賞者



J F 後 潟

代表理事組合長

山 口 隆 治

< 功績内容 >

昭和45年漁業に従事。昭和48年後潟漁業研究会に加入し、ホタテ・マツモ・アワビの養殖研究に取り組み、昭和55年会長に就任し、ホタテ生産向上のためホタテラーバ調査の取り組みに力を注いだ。平成元年漁協理事に就任し、自ら率先してホタテ大型貝の生産を推進し、組合員のため優れた指導力を遺憾なく発揮した。平成19年代表理事組合長に就任し、ホタテ以外の主力魚種とすべくむつ湾産のマボヤ養殖に取り組み、組合員そして漁協の更なる発展に努めた。組合員及び漁協の経営安定のため、複合養殖の研究に積極的に取り組んでいる功績は誠に大である。

第7回 津軽海峡交流圏「大農林水産祭」

去る、11月12日～13日、「大農林水産祭」が青森産業会館で開催されました。会場では、海の市、JA ふるさと市、産直市等131店が出店し、11月の寒い季節の中、来場者数3万人を越えるイベントとなりました。

本会では、マグロ解体ショーのイベントで会場を盛り上げ、様々な水産物・加工品を取り揃えてブース販売を行いました。

当日は、マグロの即売会、各ブースにおいての試食会に長蛇の列が並び、ステージでは、保育園児鼓笛隊演奏や大川平荒馬踊りなどのアトラクションで大いに賑わいました。



オープニングセレモニー



本会ブース販売

本会ブース 人気商品ベスト3

- 1位 マグロ
- 2位 昆 布
- 3位 筋 子

水産に関する主な動き(8月～12月)

8月	事 項	場 所
4日(木)	全国漁連・信漁連会長、漁済組合長緊急合同会議	東 京 都
9日(火)	青森県定置漁業協会 全体協議会	青 森 市
24日(水)	東北・北海道漁協専務参事懇談会	宮 城 県
26日(金)	太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議	東 京 都
27日(土)	下北地区販売担当者ブロック会議	む つ 市

9月	事 項	場 所
8日(木)	東日本産地魚市場協会 通常総会	八 戸 市
10日(土)	第36回全国豊かな海づくり大会	山 形 県
14日(水)	全国漁連・信漁連専務参事会議	東 京 都
21日(水)	漁船リース緊急事業に係る説明会	東 京 都
30日(金)	漁協販売担当者会議	青 森 市

10月	事 項	場 所
4日(火)	本会業務部担当理事会	青 森 市
4日(火)	本会理事会	青 森 市
7日(金)	密漁監視システムに係る説明会	青 森 市
7日(金)	全国漁青連 北海道・東北・茨城ブロック会議	福 島 県
18日(火)	漁船リース緊急事業・機器等導入緊急対策事業説明会	東 京 都
19日(水)	組織再編等推進会議	東 京 都
19日(水)	北海道・東北漁船海難防止連絡協議会	宮 城 県
27日(金)	第67回全国漁港漁場大会	東 京 都
27日(金)	資材購買ブロック会議	山 形 県

11月	事 項	場 所
1日(火)～ 2日(水)	本会監事・監査会	青 森 市
8日(火)	平成28年度補正予算に係る事業説明会	東 京 都
9日(水)	植村正治会長之像「建立除幕式」「建立祝賀会」	青 森 市
10日(木)	(公社)青森県漁協経営安定対策協会 臨時総会	青 森 市
10日(木)	青森県系統購買担当者会議	青 森 市
12日(土)～13日(日)	第7回津軽海峡交流圏大農林水産祭	青 森 市
16日(水)	全国漁連・信漁連会長、漁済組合長合同会議	東 京 都
17日(木)	東北・北陸ブロック購買推進会議	福 島 県
17日(木)	漁協運動功労者表彰式	東 京 都
26日(土)	第44回「青森の海と川をきれいにする運動」優秀作品表彰式	青 森 市
29日(火)	青森県漁船保険組合 臨時総代会	青 森 市

12月	事 項	場 所
5日(金)	本会理事会	青 森 市
13日(火)	太平洋沖合海域におけるスルメイカ資源の利用に関するありかた検討会	青 森 市
30日(金)	仕事納め	青 森 市



表彰状授与



主催挨拶(吉田水産振興会長)

この運動は昭和四十八年、ホタテガイの養殖が盛んになってきた陸奥湾をいつまでもきれいに守っていくために、青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会が取組み始めたものです。以来、毎年続けられており、今年で四十四回目になります。平成二十四年度からは一般社団法人青森県水産振興会が引き継ぎましたが、今年からは河川や湖沼も含め県内一円の小・中学校から作品を募集することとしたものです。

県内すべての小・中学校に作品の応募を依頼したところ、今年は、五十一の小・中学校から五五八点の応募がありました。

専門審査員による厳正な審査を行い、十一月二十六日の優秀作品表彰式には、受賞者・随行者等の九十七名が出席しました。



主催、来賓、審査委員、受賞者

第四十四回「青森の海と川をきれいにする運動」優秀作品表彰式

第44回「青森の海と川をきれいにする運動」受賞者一覧

【図画 小学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立奥内小学校	1	横 山 紗 和
準特選	青森市立奥内小学校	2	飯 田 楓 大
準特選	青森市立奥内小学校	2	小 野 汰 成
準特選	青森市立沖館小学校	4	越 田 壘 富
佳 作	青森市立奥内小学校	1	奈 良 風 音
佳 作	青森市立奥内小学校	2	大 澤 蓮
佳 作	青森市立造道小学校	1	佐 藤 あかり
佳 作	青森市立奥内小学校	1	奥 谷 経 一
佳 作	平内町立山口小学校	2	須 藤 青 海
佳 作	青森市立浦町小学校	4	野 田 達 也

第39回 全国海の子絵画展へ出展(6名)

【ポスター 小学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	むつ市立川内小学校	4	三 国 杏 奈
準特選	弘前市立青柳小学校	4	佐々木 漣
準特選	弘前市立青柳小学校	4	工 藤 悠 介
準特選	八戸市立白銀南小学校	5	田 中 遥 菜
佳 作	八戸市立城下小学校	1	相 澤 天 音
佳 作	むつ市立大平小学校	3	小 林 賢 生
佳 作	弘前市立青柳小学校	4	石 岡 海暉人
佳 作	青森市立浜館小学校	4	丹 代 杏 莉
佳 作	黒石市立上十川小学校	4	加 藤 咲 菜
佳 作	弘前市立青柳小学校	4	成 田 昊 雅

【作文】

賞名	題 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	海がきれいになったらいいな	青森市立後潟小学校	3	山 口 菜 摘
準特選	つながる海	外ヶ浜町立三厩小学校	5	三 浦 朋 友 哉
準特選	八戸の自然を未来に残すために	八戸市立豊崎中学校	1	永 田 憲 伸
準特選	私たちの手で	青森市立戸山中学校	3	小 野 詩 真
佳 作	祖父と見た海をいつまでも	青森市立戸山中学校	3	江 戸 裕 紀
佳 作	みんなで広げよう	外ヶ浜町立平館小学校	4	中 村 洸 太
佳 作	きれいな海にするために	青森市立浪打中学校	2	岡 村 菜 月
佳 作	ゴミよりも大きな問題	外ヶ浜町立平館小学校	4	越 田 誠 也
佳 作	私達にできること	青森市立浪打中学校	3	荒 関 唯 奈
佳 作	海をきれいにするには	むつ市立むつ中学校	3	杉 山 颯

【標語】

賞名	標 語	学 校 名	学年	氏 名
特 選	ゴミ拾い 海を育てる 第一歩	むつ市立むつ中学校	1	山 口 智 道
準特選	この夏も ごみをひろって 海きれい	南部町立名川南小学校	5	藤 原 歩 暖 花
準特選	釣りに行き 家族・友達 ゴミ拾い	むつ市立むつ中学校	1	山 本 あかり
準特選	青森の 海を守るぞ ごみ拾い	八戸市立白銀南小学校	5	柿 陽 登
準特選	どこまでも 世界とつながる ぼくの川	むつ市立川内小学校	1	美濃部 みずき
佳 作	ごみ拾い 海がきれいだ みんな笑顔	むつ市立むつ中学校	1	松 本 海 翔
佳 作	海が好き ならばみんなで ゴミ拾い	むつ市立むつ中学校	1	中 田 和 花
佳 作	残したい 守りたい 青く輝くふるさとの海	蓬田村立蓬田中学校	1	張 間 千 桜
佳 作	美しい 海にするため リサイクル	外ヶ浜町立平館小学校	4	木 浪 帝 十
佳 作	サケたちが 帰ってこれる 川づくり	八戸市立島守小学校	5	織 田 かれん

第四十四回

「青森の海と川をきれいにする運動」

作文の部 特選

『海がきれいになったらいいな』

青森市立後潟小学校 三年 山口 菜摘

「菜摘、今日、天気いいから海に行けるよ。」

「やったあ。」

今日は朝からすごくいい天気です。先週から、わたしは、お母さんとお父さんと、うちの船にのって、あみを上げに行くやくそくをしていたのです。

わたしは、「いっぱい魚がとれるといいな。たいとか、いかとかとれるといいな。」と思いながら船にのりました。

船は、沖にむかって進んで行きます。ところが、だんだん沖に行くと、海にごみがうかんできているのがつきました。わたしは、思わず、「わあ、ごみいっぱい。」

と、大きな声で言っしまいました。お父さんが、目の前の海を見て、

「そうだね。」

と、かなしそうな顔で言いました。もう一度海をよく見てみると、レジぶくろやみかんの皮な

どが、いっぱい海にうかんでいます。

「なんで、海にいっぱいごみがうかんでいるんだろうね。」

と、お母さんに言うと、お母さんは、

「海がきれいなら、もっと魚がとれるのにと、ひくい声で言いました。

お父さんは、手にあみを持って、うかんでいるごみをひろいはじめました。わたしも、船の上によこになって、手をのばして白いレジぶくろをひろいました。海に落ちないように気をつけてひろいました。海のごみが少しへったので、よかったなと思いました。

いよいよあみを上げます。お父さんとわたしで、あみをひっぱりました。

「わあ、重い。」

とわたしと言うと、お母さんは、

「重いけど、がんばって。」

と、わらいながら言いました。ひっぱっていく

と、魚がはねているのが見えてきました。海の水がいっぱいはねて、顔にかかりました。目にしてみてもちよつとしたかったけど、がんばってひっぱりました。銀色の魚がいっぱい光っている中に、ところどころ赤いかがにげ回っていました。わたしは、「いっぱい魚がとれてよかったな。」と安心しました。海にごみがいっぱいあるのを見たときは、「こんなに海がきたなかったら、魚も少ししかとれないんじゃないかな。」

帰るとき、船のいちばん前にすわっていたら、すずしい風がいっぱい顔にあたってきた。とても気持ちよくて、

「すごく気持ちいい。」

と、声に出してしまいました。お母さんも、

「すずしいね。」

と、わらって言いました。

家に帰って、お母さんに、

「ごみ、いっぱいあったね。」

と言いました。すると、お母さんは、

「そうだったね。」

と、ちよつとかなしそうな顔で言いました。わたしは、「ごみがなくなれば、もっと魚がとれるだろうな。これから、ぜったい海にごみをすてないようにしよう。」と思いました。そして、わたしが大人になったときも、後がたの海が泳げるぐらいきれいだったらいいなと思いました。

第44回
「青森の海と川をきれいにする運動」優秀作品

《図画の部》「小学校」

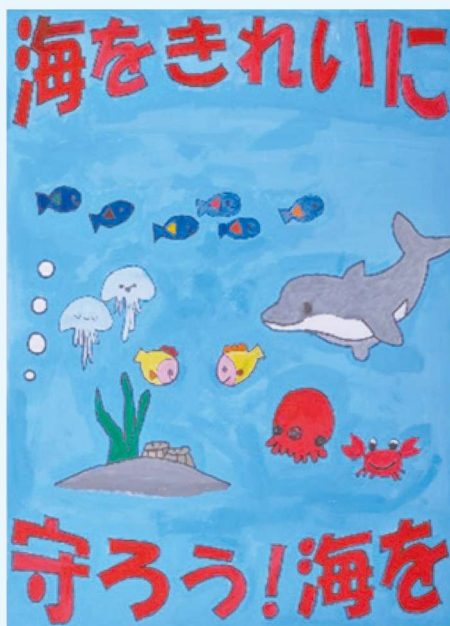
特 選
(全国絵画展出展)



青森市立奥内小学校
1年 横山 紗和 さん

《ポスターの部》「小学校」

特 選



むつ市立川内小学校
4年 三国 杏奈 さん

《ポスターの部》「中学校」

特 選



むつ市立むつ中学校
3年 小谷 優奈 さん

《標語の部》特選

ゴミ拾い
海を育てる
第一歩

むつ市立むつ中学校
1年 山口 智道 さん

平成28年度 密漁防止絵画コンクール

青森県漁場監視団連合会では、「密漁防止」の普及啓発活動を推進しています。この「密漁防止」の推進を通して、健全で明るい水産業の振興に資することを目的に「密漁防止」に関する作品を募集したところ、県内の小・中学校から220点を超える応募がありました。入賞作品（最優秀賞、金賞、銀賞）は以下のとおりです。御応募ありがとうございました。

《小学校の部》

最優秀賞



むつ市立第二田名部小学校
6年 吉井 実似 さん

金賞



平内町立小湊小学校
2年 古川 愛里 さん

銀賞



青森市立浪打小学校
5年 工藤 煌太郎 さん

《中学校の部》

最優秀賞



八戸市立三条中学校
2年 才神 瑠奈 さん

金賞



青森市立浦町中学校
3年 小笠原 零 さん

銀賞



八戸市立三条中学校
2年 荻谷 侑香 さん

平成28年1月10日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)
〈印刷〉ワタナベサービス株式会社